

NRC サステナ通信

発行:株式会社日本リサーチセンター 営業企画3部

サステナビリティと子どもへの金融教育

今回のテーマは「子どもへの金融教育」。

「金融」って言われても、自分もよくわからないし…と思う方も少なくないと思います。一方で、子どもを持つ方の多くは、わが子が成長して大人になったら、金銭的に困らない生活を送ってほしいと願っているのではないのでしょうか。

子どもたちの未来につながる「持続可能な社会」を考えるうえでも、お金のことは大人も子どもも、避けて通れない話題の一つであるといえます。

「ファイナンシャル・ウェルビーイング」って？

最近、「ウェルビーイング」という言葉を耳にすることが増えた方もいると思います。

「ウェルビーイング」は、個人の身体的、心理的、社会的な健康をバランスよく保ちながら、自己実現や意味のある人生の追求を目指す総合的な考え方です。

ウェルビーイングを構成する要素は、身体・健康、人間関係、労働・キャリアなど、多岐にわたりますが、そのうちの1つに「お金」の視点があります。

これを「ファイナンシャル・ウェルビーイング」といいます。健全な金銭的状态を保ち、将来に備えることで、心の安定や生活の充実を実現できている状態を指します。

「ファイナンシャル・ウェルビーイング」の実現には、個人の金融知識・リテラシーの向上も重要です。

自分自身の日々のお金の管理はもとより、投資、ローンの利用などについて基礎的な知識を持つことが、みずからの経済的な健全性を保つ上で役立ちます。

子どもたちが大人になったときに「ファイナンシャル・ウェルビーイング」を実現できるように、学校教育での対応も始まっています。



高校生への 金融経済教育が 始まったことの 認知率は52.2%



2022年4月から、高校生の家庭科の授業の中で、金融経済教育が行われるようになりました。「家計管理とライフプランニング」、お金を「使う」「備える」「貯める・増やす」「借りる」などの切り口別のテーマのほか、「金融トラブル」についても触れられています。

開始当初はメディアにも取り上げられていましたが、2年ほど経ったいま、どのくらい知られているのでしょうか。私たちは、2023年8月と2024年4月に、全国の一般生活者1,200人を対象に、金融教育に関する調査を実施しました。

高校生に対して金融教育が始まったことを「知っている」人は、今年2024年4月では21.3%。認知計では52.2%と約半数で、2023年8月(43.8%)から1割近く認知率が増えています。

Q 2022年4月から、高校生への金融教育が始まったことを…



投資・資産運用を 学ばなら「学校で」 が70%以上！

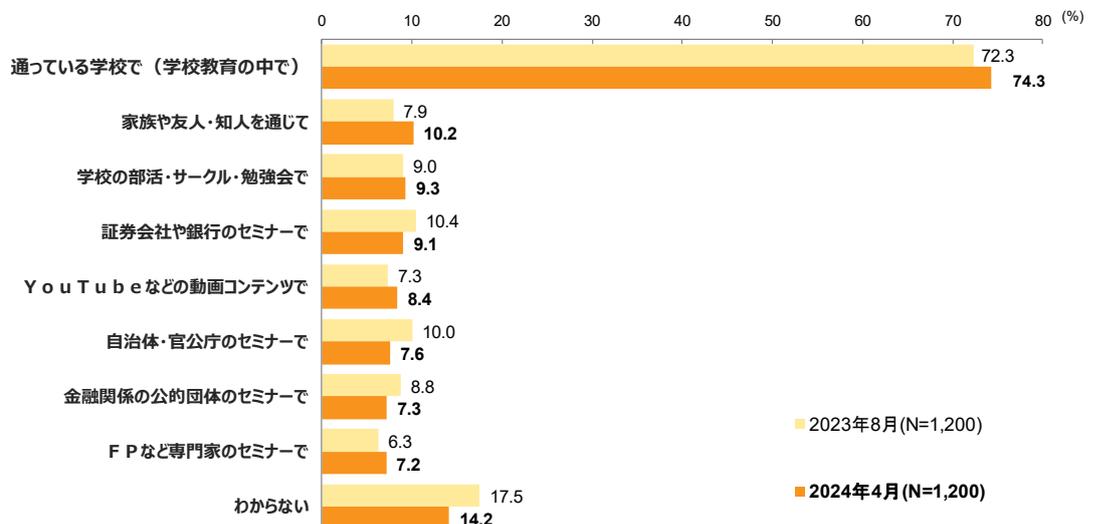


最近ではNISAやiDeCoなど投資・資産運用の制度が充実してきています。中高生くらいの子どもたちが投資や資産運用を学ぶときに、どんな場・ツールがよいかを聞いてみました。

一番多いのは「通っている学校で(学校教育の中で)」。2023年8月、2024年4月ともに7割以上です。それ以外は多いものでも10%程度。

学校以外での子どもに向けた機会の提供はこれから、というところでしょうか。

Q 中高生が投資や資産運用について教育を受けるとしたら？ (5%以上の回答)



子どもへの 金融教育は 中高生から



学校教育の中で、いつから金融教育を始めるのがよいかを聞いてみました。

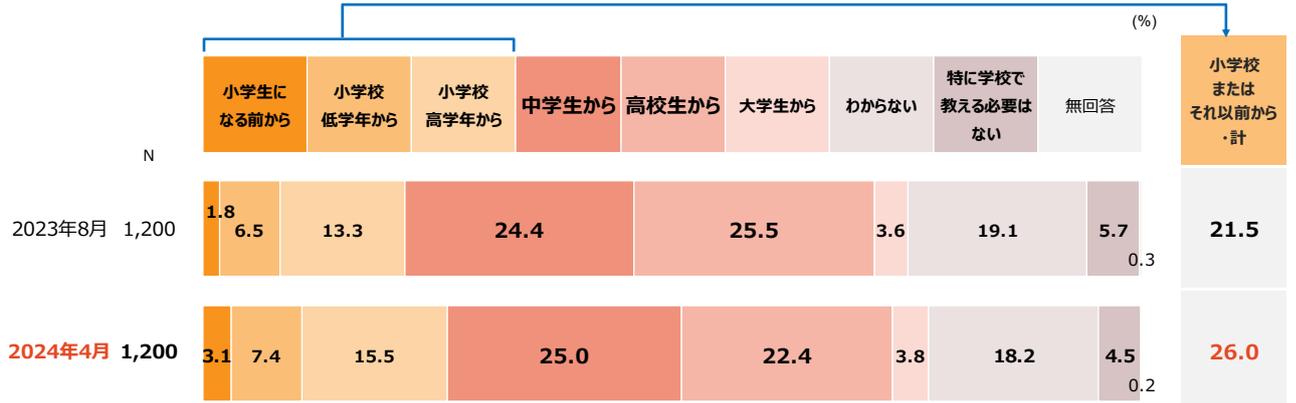
中学生や高校生からという意見が多く、それぞれ全体の約1/4ずつです。

小学校やそれ以前からという人も、2024年4月調査では合計で26.0%います。

この数値は、2023年8月では21.5%でしたので、より早期に金融教育を始めるのがよいと考える人が増えているようです。

おこづかいやお年玉などで、小学校以前からお金に接し始める子どもも多いのではないのでしょうか。そうしたことも、この意見の背景にあるかもしれません。

Q これからの子どもたちに、どのくらいの年齢から学校での金融教育を行うのがよい？



小学生以前から・計：「小学生になる前から」+「小学校低学年から」+「小学校高学年から」

それぞれの意見

(2024年4月)

高校生からアルバイトなどをする子がいるので、中学3年生くらいから行えばよい

理解力や詐欺にあわないためのリテラシーが備わるのが高校生からと考えた

義務教育の間にするべき
(高校に進学しない子どももいるから)

「中学生から」
と回答した人

「高校生から」
と回答した人

子供同士での付き合いが多くなるから
(子供だけで出かけ、お金を使うことも増える)

大学生になると、ある程度自由になるお金があるようになるので、その前にある程度知っておいた方がよい

高校在学中に成人年齢の18才になるし、数年後には社会人になり、自分でお金の管理をする日も近いので、身近なこととして興味を持って勉強するのは

金融教育の開始時期について「中学生または高校生から」と回答した人に、その理由を聞きました。上記はその回答の一部です。

「中学生から」という人は高校生になる前の、「高校生から」という人は大学生・社会人・成人になる前の準備として、金融教育が必要だと考えている意見が見られました。「大人になる準備」の一つとして、金融教育が捉えられているのかもしれないですね。

金融教育を通じて、子どもたちがファイナンシャル・ウェルビーイングを実現できる社会になるよう、私たちもリサーチで支援できればと思います。



当社では、SDGsの推進支援プログラムを展開しております。
みなさまの社内・組織内での推進に課題をお持ちでしたら、
ぜひ一度、ご相談ください！

SDGsに関するリサーチ

社会課題への取り組みを切り口に
生活者、ユーザー、従業員の三者の視点から
コーポレートブランドの評価を把握。

NRCのリサーチ設計・分析力により、
社会課題解決を通じた企業価値の向上を支援します。



実績豊富な各種リサーチ手法から、多様なデータ収集と分析が可能

SDGsに関する制作・編集

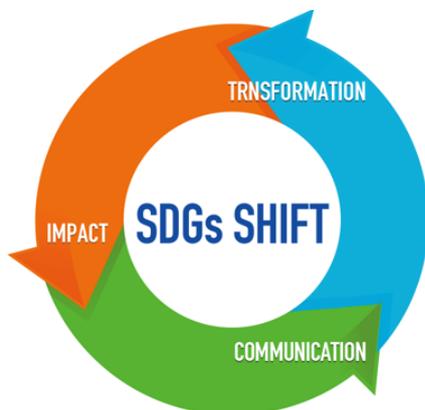
社会課題をテーマにした
さまざまなコミュニケーションツールを、
社内・社外向けのダイアログ(対話)のために制作。

NRCの制作・編集力で、内・外の両面から
ブランディングを支援します。



多彩な協力会社と連携し、ワンストップでのサービス提供が可能

NRC SDGs SHIFT PROGRAM



NR 株式会社日本リサーチセンター

〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-26-5
東京トラフィック錦糸町ビル

お問い合わせ窓口: nrc_sdgs@nrc.co.jp
営業企画3部 井嶋(イジマ)

URL: <https://www.nrc.co.jp>